竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第111版

理念と実践で絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

【書類改善の話し合い】
文化とはこのような体験を繰り返し行っていくからこそ生まれるものだと感じられます。

自らで変えていける力 ～体験しながら改善～

沖縄県のテクノ保育園様では、新指針に変わった今年度に保育書類の見直しを始めていました。「子どもにこういうことをさせたい」という計画ではなく「子どもの姿からこの姿を存分に保障していくためにはどうしたらいいだろうか」「どんな環境を用意すれば、子どもが自ら環境に働きかけ発達していくだろうか」という意図を持った計画へ。指針にも自園の理念にも準拠していく為に書類改善の話し合いを重ねたそうです。

特徴的だったのは「理想の書式は見えていても、難しすぎて使いこなせなかったらいけない」と「正解」を現場に押し付けるのではなく、「現場で話し合いながら書式を改善していく」ということを選択していることでした。「教え込む」ではなく「先生方が体験しながら改善していく」という意図を優先することが、目指す理念を支えていける文化や改善し続ける主体的な組織となっていく文化を育んで行くのだと感じました。

見守る眼差し

ギビングツリー主催の『保育環境セミナー』で、東京都八王子市にある長房南保育園様が「リスクのドキドキ」と「見守る保育のワクワク」をテーマに発表されました。『見守る保育』を取り入れて5年。異年齢保育やコーナー設定に変え、少しずつ環境を整えていったそうです。

実践が進む中、怪我や規定の遊びのルール（三輪車の対象年齢は3歳以上だけれど、乳児は使っていいのだろうか等）について、職員間で疑問が挙がったそうです。以前であれば、平均台を反対に設置して遊んでいたりしたら止めたそうですが、『見守る保育』を実践する他園での研修で「職員は、子どもたちに危ないことがあることを伝えつつも、遊びのルールは子どもたちが決めています。」という一言を聞き、自園ではどうするか話し合ったそうです。

ある日、縄跳びを持った女の子たちが鉄棒に縄を結び、ブランコのようにして遊びはじめ、異年齢の関わりや満足そうな顔が見られ、もし、声を掛けて止めてしまっていたら見えなかった子どもたちの姿が見られたと言います。

年上の子（ピンク帽子）が年下の子（黄色帽子）に教えてあげています。

鉄棒に顎を打ったり落ちてしまう可能性もありますが、保育者が子どもの遊びを壊さないことや、危険に気付けるよう育てていくことの重要性にも気付いたため、保護者へも園外で遊ぶことを考え、見守る眼差しを大事に出来るよう、手紙を配布する等の方法を始められたそうです。

園同士の学び合いをきっかけに、子どもたちのワクワクを育まれる先生方のように、私たちもリスクばかりでなく、ワクワクする工夫を大事にしていきたいと思います。

自立できる子ども

茨城県の大宝保育園様で行われた園庭勉強会に参加しました。「幼児にとって大切なことは、遊ぶこと・食べること・寝ること。子どもが大好きな外遊びを存分にさせたいと願っていたら、こんな園庭に…」という案内のとおり、樹木もいっぱいの自然豊かな園庭では、ポンプで水を出し砂遊びを楽しんだり、ツリーハウスに登って下を見下ろしたりと、子どもたちのイキイキした姿がとても印象的でした。それは自然が与えてくれる力も勿論あるのでしょうが、その背景には「子どもを信じる」という先生たちの存在も大きいことを感じます。

例えば、起伏のある自然な地形や緑などを有効に活用した園庭からは、子どもたちの好奇心や探求心もどんどん引き出され遊びが広がり、その分多少の危険も増えそうに感じる中で、先生たちは協力し合いながら絶妙な距離感で子どもを信じて見守っていました。実際には年度始めの4月の段階で、先生たちは「どこまでが危険か」をはかるため子どもたちの近くにつき、それを理解してから子どもに合わせて次第に距離感を変えていっているとか。更には子ども同士の関わりも進み、今では危険そうな子どもがいると年長児がフォローしてくれたりもするそうです。

先生が決めたりやってあげたり、安全を求めるばかりに危険を取り除き過ぎたりしないのは「自立できる子ども」を目的として保育を行っているからこそ。子どもを信じて主体性を奪わぬように本人の体験を尊重している先生たちから深い愛情を感じると共に「尊重すること」の本当の意味を学ばせて頂きました。

園庭での遊びが楽しすぎて、以前は人気だった三輪車も今ではほとんど出番がなくなるほどに！

無料メールマガジンも配信中です

神家総本家 瓦版

こちらからご登録いただけます
www.caguya.co.jp/kawaraban/

CCN CAGUYA COMPANY NEWS
カグヤニュース

カグヤでは、クルー同士別々の場所にいても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

社内木鶏を通して

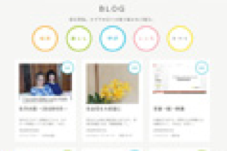
月に一度の初心会議の日の朝は、皆で人間学を学ぶ月刊誌『致知』を読み、一ヶ月の自身の実践と照らし合わせながら、皆で感想を共有し学び合う『社内木鶏』を行っています。先月は、長くお付き合いのある致知出版社のご担当者様が来社して下さり、一緒に学び合いの時間を味わう機会をいただきました。

この実践を取り組み始めたのは10年以上も前のこと。当時の私たちは「トクという字を書いて」と言われてもピンとこず、お買い得の「得」の字を書いてしまった…という笑い話が社内に残っていますが、こうして長年『致知』を通して学び合いを積み重ねてきたこともあり、今回ご担当者様からは「得の字を書いていた会社が、今では『徳』を磨いている会社になっていますね！」と嬉しい賛辞のお言葉をいただきました。そして、こんな風に会社の変遷を見守って下さっている存在がいる有難さも同時に感じられました。

自分だけで記事を読んで完結するよりも仲間の感想や気づきを聴くことで学びが深まるように、日頃から皆で取り組むことを大事にしていきたいと思います。

社内木鶏会は、全国の1,200社を超える企業で行われている人間学を学ぶ勉強会です！

一道を切り拓いてきた方々の貴重な体験談が紹介されている月刊誌です。


今回から感想をブログでも発信してみることに。

生まれ変わりの人生

先月、いつもお世話になっているパートナーさんが還暦を迎えるということで、月に一度の初心会議での誕生日祝いの場で還暦祝いもすることに！節目を迎える方に感謝の気持ちを伝えながら楽しくお祝いする方法を皆で考えます。会議当日、少し（かなり？）遊び心を交えたちゃんちゃんこを見たパートナーさんは思わず爆笑！快く受け入れて下さる姿に、嫌な顔をされたらどうしようかと心配していた気持ちが一気に吹き飛び、笑いあり涙ありの楽しい還暦祝いとなりました。

パートナーさんは「二巡目の人生、生まれ変わりの実践をしていきたい」と仰います。一般的には定年という節目になりますが、ここからさらに繋がり、積み重ね合える関係を築いていけることが幸せなことだと感じます。パートナーさんの二巡目の人生がさらに豊かなものになるよう祈りながら、皆が年齢を重ねることが楽しみになるひとときとなりました。

用意したのは…鬼太郎のちゃんちゃんこでした！こんなおふざけにも付き合ってくれる所に懐の深さを感じます。

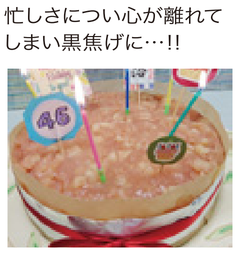
失敗は成功のもと

初心会議で恒例となっているバースデースイーツは思いつきと勘の賜物。今回もテレビで観てノリで決めたブルーチーズケーキでしたが、電話対応やミーティングやらの隙間時間での製作で焼き加減を見誤り表面が真っ黒に焦げまさかの失敗!?

でもどんなハプニングにもめげない、諦めないのがカグヤのモットー。焦げた部分をきれいにカットした濃厚なチーズケーキを土台に口当たり爽やかなピンクのジュレをデコレーション。

見た目も美しく、さらに味も引き立て合う、まさに互いの個性を活かしあうカグヤらしいチーズケーキとなりました。そして手放さない見守りの大切さをケーキと一緒に味わいました。

忙しさについ心が離れてしまい黒焦げに…!!


桃の果肉とグアバジュースで作った寒天ジュレで清涼感を演出♪手作りの飾りで華やかに

一期一会庵

徳の伝道

先日、鹿児島県知覧町にある富屋旅館にお伺いするご縁がありました。ここの旅館は特攻の母として有名な鳥濱トメさんが開業した富屋食堂の隣に別館として特攻隊員らの遺族を知覧に泊めるために建てられたものです。特攻隊員たちが最期の大切な時を過ごした離れは、今でも凛とした佇まいで澄み切った神社のように清々しい場力を感じました。純粋に真心で未来のために命を捧げた人たちの魂の故郷として今でも大切に場が語り継いでいるかのようでした。

特攻隊から「お母さん」と慕われたトメさんのお話をお聴きしていると、実際には我が子を見守る代表的な「日本人の母」のようでした。

現代は、とかくクニのことをいえば政治問題にされ、魂のことなどをかけば宗教などと批評されます。しかしよく考えてみると、当然なのは今の自分があるのは誰の御蔭様なのか。ご先祖様たちの人生や生き様、いのちを尽してくださった徳の積み重なったものの先に今の私たちが暮らしていけるのはわかります。その人たちが子どもたちの行く末を案じ自分のいのちを捧げてくださった御恩を忘れてはならないし、その祈りを語り継いで平和を守りたいと思うのです。

その鳥濱トメさんの言葉です。「善きことのみを念ぜよ。必ず善きことくる。命よりも大切なものがある。それは徳を貫くということ。」

時代が変わっても、何がもっとも大切なことかは、言葉にしなくても普遍的に道徳として歴史の中に伝承されて子どもたちをいつまでも見守ってくれています。この富屋旅館で得た気づきを次世代の人たちにつないでいけるように私も真摯に自己を磨き、生き方や本業を通して徳を伝道していきたいと思います。

【編集後記】

今月も竹取新聞をご覧頂きありがとうございます。これから朝夕冷えてまいりますので、皆様どうぞお体を大切にお過ごしくださいませ。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

caguya
株式会社 カグヤ

本　社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: http://www.caguya.co.jp
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
（土・日曜祝祭日を除く）